

関西学院大学大学院 2026年度 第1次 社会学研究科 入学試験問題

試験科目	社会学専攻		専門科目
試験時間	90分	辞書の使用は認めない	1/1

解答は、別紙に記入すること。
なお、解答する問題については、いずれの出題分野でも構いません。

I. 次の4問の中から1つを選んで答えなさい。 (30点)

- A. 現代社会において「公」の領域と「私」の領域の関係にはどのような変化があり、そこにはどんな問題が生まれているのか。これについて、なんらかの事例を挙げて論じなさい。【社会学】
- B. ある社会のなかで「多様性」が増大するとき、一方で「対立」や「分断」が生じる可能性が、他方でそれまでなかった「連帯」や「共同性」が生じる可能性がある。このふたつの可能性について、なんらかの事例を挙げて論じなさい。【社会学】
- C. 「人」としての生と死の区切りについて、①医療、②通過儀礼という2つの観点から論じなさい。【文化人類学・民俗学】
- D. シャクターらが提唱した情動二要因理論について、その概要を説明しなさい。【社会心理学】

II. 次の4問の中から1つを選んで答えなさい。 (30点)

- A. マーシャル・マクルーハンは「メディアはメッセージである」と述べた。この命題を踏まえながら、現代におけるメディアの変容とその影響について、なんらかの事例を挙げて論じなさい。【社会学】
- B. 船橋晴俊らは「受益圏／受苦圏」のアプローチを用いて、新幹線の高速走行による騒音・振動問題を分析した。これ以外のなんらかの事例を挙げて、「受益圏／受苦圏」のアプローチからそれについてなにが解明できるか、論じなさい。【社会学】
- C. エスニック・アイデンティティの形成と維持は、グローバルな移動とどのように関わっているか。具体例を挙げて述べなさい。【文化人類学・民俗学】
- D. 感情（情動）や直観と、認知（情報処理、判断）との関連に関する理論の概要について、特に感情や直観の持つ機能に着目して、適応論的な視点から説明しなさい。【社会心理学】

III. 次の用語の中から4つを選んで説明しなさい。 (10点×4)

1. 「主我（I）」と「客我（me）」 【社会学】
2. マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』【社会学】
3. 第一波フェミニズム運動／第二波フェミニズム運動 【社会学】
4. ラベリング論（labeling theory）【社会学】
5. 世界都市（global city）【社会学】
6. インターネット民俗学 【文化人類学・民俗学】
7. 互酬性（reciprocity）【文化人類学・民俗学】
8. 文化遺産（cultural heritage）【文化人類学・民俗学】
9. 「野の学問」【文化人類学・民俗学】
10. 狩猟採集社会 【文化人類学・民俗学】
11. 文化的アフォーダンス（cultural affordance）【社会心理学】
12. 錯誤相関（illusory correlation）【社会心理学】
13. 共通内集団アイデンティティ・モデル（common ingroup identity model）【社会心理学】
14. 対人コミュニケーションにおける予防接種効果（inoculation effect）【社会心理学】
15. ソシオトロピックな認知（sociotropic cognition）【社会心理学】

関西学院大学大学院 2026年度 第1次 社会学研究科 入学試験問題 (出題の意図・解答例)

【出題の意図】

I. II.

社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学の中から一つの分野を選び、設定された特定の論点について専門知識を用いて論理的に議論を展開できるかを問う。

III.

社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学における基本的な概念・用語について、十分な知識を持っているかを問う。

【解答例】

各設問への解答としては、以下に列挙する内容や論点をカバーしたものであることを想定している。とくに論述問題に関しては、受験生の自由で独自な発想による記述を評価する。なお、分野別に指定されている教科書の該当箇所については、巻末の索引なども活用していただきたい。

社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学における基本的な概念・用語について、十分な知識を持っているかを問う。

解答は、別紙に記入すること。

なお、解答する問題については、いずれの出題分野でも構いません。

I. 次の4問の中から1つを選んで答えなさい。 (30点)

A. 現代社会において「公」の領域と「私」の領域の関係にはどのような変化があり、そこにはどんな問題が生まれているのか。これについて、なんらかの事例を挙げて論じなさい。【社会学】

指定されたテキスト『社会学入門』の第4章「市民社会と公共性」では、公共的な決定／私的な決定、公共空間でのふるまい（アーヴィング・ゴッフマン）、人工妊娠中絶の是非など私的な問題の公共的選択、市場・政府・非営利活動の関係、など、いくつかの「公的／私的」にかかわる問題が論じられている。他にも、フェミニズムが論じた公的領域（市場）と私的領域（家族）の関係、アーリー・ラッセル・ホックシールドが感情をめぐって論じた私的生活と公的生活など、さまざまな論点を挙げることができる。本問は「公」と「私」というテーマから、解答者が現代社会における事例を自由に選択したうえで、その問題をどのような理論的枠組みを用いて論述できるか、という総合力を問う設問である。

B. ある社会のなかで「多様性」が増大するとき、一方で「対立」や「分断」が生じる可能性が、他方でそれまでなかった「連帯」や「共同性」が生じる可能性がある。このふたつの可能性について、なんらかの事例を挙げて論じなさい。【社会学】

『社会学入門』の第1章「社会学とは何か」では、「社会学とは、多様性のもとでの共同性を探求する学である」と記され、人々は年齢、性、人種、民族などの属性、生き方、信仰、価値観、性格などの文化的側面、学歴、職業、収入、生活水準などの階層的・経済的側面において異なっているが、こうした多様性のもとでおかつ共同の社会を構築し、ともに生活している、と論じられている。また、「共同性の破れ」として社会的不平等を挙げ、「共同性」が失われ壊れることもある、とする。本問は、「多様性」をめぐって「対立／分断」と「連帯／共同性」がいかに生じるか、という課題に対して、解答者が現代社会における事例を自由に選択したうえで、どう思考して論述できるか、という総合力を問う設問である。

C. 「人」としての生と死の区切りについて、①医療、②通過儀礼という2つの観点から論じなさい。【文化人類学・民俗学】

「人」としての生と死の区切り（境界）については、

- ・日本でも脳死を巡って国民的議論が巻き起こったように、あるいは人工妊娠中絶の諾否を巡ってアメリカで政治的対立が続いているように、医療的な見地からの判断すらも単純ではなく、「文化」として語られる人々の違和感に寄り添うことも重要となる
- ・生と死の概念は「連續的な命のどこかに線を引いて作られる人為的な概念」であるため、文化によって区切り方が異なり、またさまざまな通過儀礼を伴う
(関連ページは『よくわかる文化人類学 第3版』p.129, p.133, pp.136-37, 142-43など)

D. シャクターらが提唱した情動二要因理論について、その概要を説明しなさい。【社会心理学】

池田謙一ら (2010) 社会心理学 有斐閣 p.49

- ・自身の生理的喚起（興奮）に関する解釈の多義性（多様性）
- ・生理的喚起の原因帰属、錯認帰属
- ・情動体験の認知（解釈）
- ・吊り橋実験、エピネフリン（偽薬）実験などの実証例

II. 次の4問の中から1つを選んで答えなさい。 (30点)

A. マーシャル・マクルーハンは「メディアはメッセージである」と述べた。この命題を踏まえながら、現代におけるメディアの変容とその影響について、なんらかの事例を挙げて論じなさい。【社会学】

『社会学入門』の第16章「メディアと文化」(248ページ)にあるように、マクルーハンは「人間の感覚を拡張するものすべて=メディア」とし、脚の機能を果たす自動車も、皮膚の代わりになるファッションもメディアだととらえた。「メディアはメッセージである」というフレーズは、それまで情報・メッセージを伝える導管のように扱われ、あまり顧みられなかったメディアについて、そこに盛られるコンテンツ以前にどのメディアを使用するかが問題だとの主張と理解される。本問は、以上を理解しているかを確認したうえで、具体的な事例を通してメディアの現代的変容について論述する力があるかを問う設問である。

B. 舟橋晴俊らは「受益圏／受苦圏」のアプローチを用いて、新幹線の高速走行による騒音・振動問題を分析した。これ以外のなんらかの事例を挙げて、「受益圏／受苦圏」のアプローチからそれについてなにが解明できるか、論じなさい。【社会学】

『社会学入門』の第14章「環境と科学技術」(210~1ページ)にあるように、「受益権／受苦圏」のアプローチとは、ある事業にかかわる主要なアクターを抽出したうえで、直接・間接に利益を受ける範囲(受益圏)と苦痛を受ける範囲(受苦圏)を特定し、両者の重なりと分離を分析するものである。舟橋晴俊らが分析した新幹線公害では、国鉄や停車駅周辺の商工業界という明らかな受益圏に対して、多くの国民が乗客として潜在的な受益者の側におり、被害を受けるのは一部の沿線住民に限られるという関係性が指摘された。本問は、以上を理解しているかを確認したうえで、なんらかの事例にこのアプローチを適用したときなにが解明できるかを論述する力があるかを問う設問である。

C. エスニック・アイデンティティの形成と維持は、グローバルな移動とどのように関わっているか。具体例を挙げて述べなさい。【文化人類学・民俗学】

- ・エスニック・アイデンティティとは「エスニック集団に属する各個人が、個人の核のみならず、エスニックな共同体の核に自らを位置づけるプロセス」と定義づけられる。
 - ・国家の中にマイノリティとして存在するエスニック集団は、支配的なエスニック集団ないしエスニック・マジョリティとの関係において、さまざまな立場に置かれ、アイデンティティの形成・維持もその立場に影響を受ける
 - ・国境を越えたグローバルな移動の結果、祖国やホームがノスタルジーの対象となることもある
 - ・移動先で多文化社会の担い手となる事例も多い
- (関連ページは『よくわかる文化人類学 第3版』pp.46-47, 96-97, 150-53など)

D. 感情(情動)や直観と、認知(情報処理、判断)との関連に関する理論の概要について、特に感情や直観の持つ機能に着目して、適応論的な視点から説明しなさい。【社会心理学】

池田謙一ら (2010) 社会心理学 有斐閣 p.48~51

- ・判断の手がかりとしての気分の利用(感情情報機能説)
- ・自分の置かれた社会的状況に一致するように自らの気分を制御する(気分制御)
- ・情報処理における気分の効果(ステレオタイプの利用、情報処理に対する直観の介入など)
- ・攻撃行動誘発、あるいは公正性侵害の際の怒りの効果、これによる適応化の増進

III. 次の用語の中から4つを選んで説明しなさい。 (10点×4)

1. 「主我(I)」と「客我(me)」 【社会学】

G.H.ミードの用語。「客我(me)」とは他者の態度をとりこんで組織化されたセットであり、「主我(I)」はそれに対する生物体の反応であるとされる(『社会学入門』19ページ)

2. マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』【社会学】

ヴェーバーは本書で、営利を目的とする資本主義の成立は、プロテstantの「予定説」を基盤とし、「世俗内的禁欲主義」のエーントスが生まれたことの帰結だと論じた(同8頁)。

3. 第一波フェミニズム運動／第二波フェミニズム運動 【社会学】

第一波フェミニズム運動は女性参政権を中心に公的領域への女性の参加を論点とし、第二次フェミニズム運動は親密な関係性内部の権力の問題に光を当てた(同35、42頁)。

4. ラベリング論(labeling theory) 【社会学】

逸脱が「ラベルを貼る」ことで作り出されるとする立場。ハワード・ベッカーは、社会集団が規則を設け、特定の人々に選択的に適用して、逸脱が深化するとした(同279~80頁)。

5. 世界都市 (global city) 【社会学】

サスキア・サッセンは石油危機後の低成長時代に生産拠点の海外移転が進展し、金融・情報・サービス業やグローバルな管理部門を集積させた世界都市が生まれるとした (同 107 頁)。

6. インターネット民俗学 【文化人類学・民俗学】

現代社会における都市伝説・現代伝説などを対象とする民俗学では、インターネット上の言説も研究対象になること、またインターネット民俗学の第一人者であるハワードによる「ヴァナキュラー・ウェブ」の考え方など(『よくわかる文化人類学 第3版』 p.200, 207)

7. 互酬性 (reciprocity) 【文化人類学・民俗学】

互酬性に関する指定テキスト内の該当箇所は多いため、モース、ポランニー、サーリンズなどの理論のいずれかが説明され、クラ交換やポットラッヂ、あるいは回答者が考えたバレンタインデー・ホワイトデーなどの事例が示されていればよい

8. 文化遺産 (cultural heritage) 【文化人類学・民俗学】

地域の観光化にともなう文化遺産化というプロセスに言及し、文化遺産を維持している現地の人々自身が自らの文化遺産をどうとらえているか、景観としての文化遺産の維持の重要性と困難、文化の展示にまつわる諸問題など(『よくわかる文化人類学 第3版』 pp.164-65)

9. 「野の学問」【文化人類学・民俗学】

「野の学問」と呼ばれるようになった民俗学のあり方の歴史的背景、大学でおしえられる学問となった民俗学との対比を踏まえつつも、野の学問としての性格を保持することの意義が何かを指摘する(『よくわかる文化人類学 第3版』 p.203)

10. 狩猟採集社会 【文化人類学・民俗学】

狩猟採集社会の特徴としての平等性、分配ルール、性別役割分業などを踏まえつつ、その多様性、定住化を促進する国家の枠組みの中での現代的な狩猟採集活動のあり方、先住民としての狩猟採集民の位置づけなど(『よくわかる文化人類学 第3版』 pp.22-27, 73, 170-71)

11. 文化的アフォーダンス (cultural affordance) 【社会心理学】

池田謙一ら (2010) 社会心理学. 有斐閣 p.421

ある一定の心理傾向や心理プロセス (認知・思考・判断など) を誘発する文化資源の性質 (イスを見た人々が、誰もがそれを「座るための道具」と認知するように)。

12. 錯誤相関 (illusory correlation) 【社会心理学】

池田謙一ら (2010) 社会心理学. 有斐閣 p.205

少数派であることから目立ちやすい人々の誰かが、これもまた目立ちやすい逸脱的な行動をとった場合、「彼ら少数派の人々は逸脱行動をとりやすい」とされるように、本来は関連のない事象の間に主観的な相関が認知される状態。

13. 共通内集団アイデンティティ・モデル (common ingroup identity model) 【社会心理学】

池田謙一ら (2010) 社会心理学. 有斐閣 p.221

異なるカテゴリーの集団・社会に属する人々が、それら異なる集団・社会をいずれも包含するより大きな集団・社会のカテゴリーに属する一員である認知することで、相互にアイデンティティを共有化できるというモデル。

14. 対人コミュニケーションにおける予防接種効果 (inoculation effect) 【社会心理学】

池田謙一ら (2010) 社会心理学. 有斐閣 p.146

最初に弱い説得 (あるいは説得の予告) を受けることで説得内容に対する吟味や熟慮がなされ、その後の強い説得に対する抵抗性が強化される現象。

15. ソシオトロピックな認知 (sociotropic cognition) 【社会心理学】

池田謙一ら (2010) 社会心理学. 有斐閣 p.318

個人が自己の利害についてではなく、社会全体の利害について重点を置いた認知。